

食でつながるびわ湖のいのち

～食育につなげるびわ湖環境学習の実践研究～

航海の特色

琵琶湖には約250種類のプランクトンや54種類の魚類など多種多様な生き物が生息している。そこには、植物プランクトンは動物プランクトンに食べられ、動物プランクトンは魚に食べられ、魚は人間に食べられているという関係がある。実際に食・被食の様子を観察することは、「いのち」によって「いのち」が維持されているという関係を理解することにつながる。

(1) 航路

<1日目>

大津港 ----- 長浜港
10:00発 13:50着

<2日目>

長浜港 ----- 大津港
11:20発 15:10着

(2) 展開事例

フローティングスクールでの学習

びわ湖環境学習 <2日目 8:00～10:40・40分ずつ4ローテーション>

- ・食物連鎖についての学習（学習室）
- ・カッター活動（活動水域）
- ・「湖の子」水調べ（3階甲板）
- ・移動、待機（長浜港湖岸）

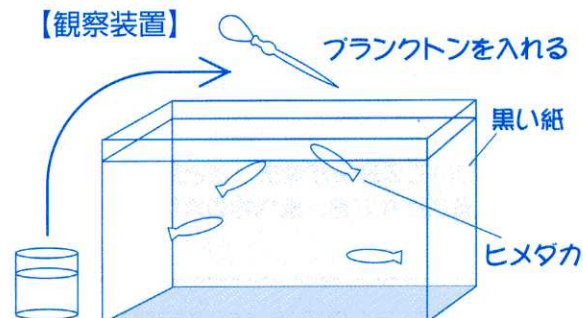
◎食物連鎖についての学習（学習室）

琵琶湖には多くの生き物がいる。その中には私たちが食べ物にしているものもある。

わたしたちが食べ物にしている琵琶湖の魚。この魚は何を食べて生きているのだろう。

- ・魚がプランクトンを食べるところをグループごとに観察する。（観察装置をグループ分準備する。）

【観察装置】



【エサ】

動物プランクトン（ミジンコ）

【提示方法】

水槽にプランクトンを入れ、魚が食べるところを観察する。

動物プランクトンは何を食べているのだろう。

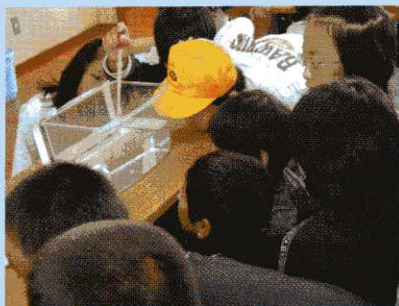
- ・顕微鏡でプランクトンを観察する。

まとめてみよう。

- ・私たちの食事は多くのいのちに支えられていることを知り、食生活（「湖の子」給食を含む）を振り返る。そして、今後の食生活をどのようにしていくか考える。

(3) 活動の様子

プランクトン(ミジンコ)をメダカのいる水槽の中に入れる。



魚(ヒメダカ)がプランクトンを食べるところを観察。



動物プランクトンが植物プランクトンを食べる場所を観察。



【児童の声】

- ・食物連鎖の学習では、植物プランクトンが動物プランクトンに食べられ、動物プランクトンが魚に食べられ、魚が人間に食べられるという順番でした。私はそれを勉強して、人間のために命がなくなる生き物がたくさんいることがわかりました。だから、私はご飯を残さず食べようと思います。
- ・食物連鎖を勉強して、人間もプランクトンと関係があるんだなと思いました。
- ・食物連鎖を勉強して、食べ物は残してはいけないと思いました。
- ・食物連鎖を勉強したときに、食べ物を残さず食べようと思いました。
- ・植物プランクトンを動物プランクトンが食べて、動物プランクトンを魚が食べて、魚を人間が食べるように、自然はつながっているんだなと思いました。だから、給食でも「いただきます。」と言って感謝し残さず食べ、食べ終わったら「ごちそうさま。」ともう一度感謝の気持ちを込めていつも食べるようにします。

【指導者の声】

- ・「命のつながり」を、子どもたちは目で確かめることができ、食物連鎖についての理解が深まったと思う。食物連鎖が自然界のことだけでなく、自分たち人間にもかかわることとしてとらえることができ、食べ物の大切さを実感した子どもが多く見られた。

【指導上の留意点】

- ・食物連鎖の関係を身近に感じさせるために、児童が食べたことのあるものを連鎖のはじまりに設定する。
- ・メダカがプランクトンを食べる場所を見るために、ミジンコなど肉眼で見える大きさの動物プランクトンを用意する。動物プランクトンは事前にプランクトンネットを使って採取して、植物プランクトンと分離しておく方が望ましい。
- ・動物プランクトンは水温によって生存できなくなるので、20℃以下に保って飼育する。